

【長与町】

校務DX計画

文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の提言に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が校務DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本町において、次に掲げる事項を重点的に推進する。

1. 校務系・学習系ネットワークの統合

本町では、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と、児童生徒・教職員が教育活動で利用する「学習系」の2つに分離することでセキュリティ対策を行う。

今後、教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とするため、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、教育委員会・学校・関係業者と連携を図りながら、ロケーションフリーで校務系・学習系ネットワークへ接続可能な環境の整備（教職員用端末の1台化）に向けた調査研究を進める。

2. 校務支援システムのクラウド化

校務支援システムについては、学校や町庁舎にサーバーを設置せず、サービス提供会社のサーバーにインターネット経由で接続して運用しており、学校現場において、教務・保健・学籍・成績管理など様々な校務で利用している。

出席確認や保護者連絡アプリなどの汎用クラウドツールと連携し、教職員間での会議資料等のペーパーレス化、教職員等のコミュニケーションの迅速化や活性化を可能と

する環境を構築するため、パブリッククラウド上での運用を前提とした校務支援システムの早期クラウド化を目指す。

3. 世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

上記2と合わせて、校務の効率化や授業の質の改善を図るため、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBTなどの教育行政データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データなど、様々な教育データを自動的に収集・分析・加工して簡潔にまとめ集計値や表、グラフなどで可視化するための管理ツール（データ連携基盤ダッシュボード）の導入やセキュアな環境下での校務における生成AIの活用に向けた検討を行う。

なお、現状においては、教職員のICT活用能力に個人差があり、上手く活用できていないケースも散見されることから、全ての教職員が効果的に活用できるよう、教職員一人一人のICT活用能力に応じた個別指導やICT研修の実施回数を増やすなどの対応についても、学校やICT支援員等と連携を図りながら、併せて検討する。

4. FAX・押印の原則廃止

学校においては依然として紙ベースの資料が多くみられ、FAXの使用等も常態化している。また、保護者や外部とのやり取りの中で、押印・署名が必要な書類が多数存在しており、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害している。

令和6年8月9日付け文部科学省事務連絡「学校等のFAXでのやり取りの慣行・学校現場に関連する押印ルールの見直しについて」に基づき、災害時の緊急連絡や教育ネットワークの不具合時など、業者等とのやり取りにおいてFAX対応が効率的である場合など特別な場合を除き、FAX及び押印の原則廃止に向けて、継続的な見直しを行う。